

武野の晴月（林羅山）

武陵の秋色月嬋娟

曠野平原晴れて快然たり

青青を輾破するも轍迹無し

一輪千里草天に連なる

武陵秋色月嬋娟 曠野平原晴快然
輾破青青無轍迹 一輪千里草連天

解説 晴れた夜、月に照らされる広漠とした武蔵野の叙景を詠った詩。

語釈 ※武野〓武蔵野の原をいう。※武陵〓武蔵国江戸の異称。

※揮嫡〓月・花・人などの姿や色に繊細な美しさのあるのにいう。

※噴野〓ひろびろとした野原。※快然〓さっぱりして気持のよいさま。

※輾破〓車輪がめぐる。※青青〓青々とした空。※一輪〓一つの月影。

通釈 江戸の郊外、武蔵野の原は、もうすっかり秋景色となり、月の光もさわやかでうるわしい。広々した平野は明るく晴れわたって清々とした気持である。月影は青々とした空をわたってあとも残さない。一望千里の草原は天と連なって、天上にはただ一輪の月が高くかかっているばかりである。